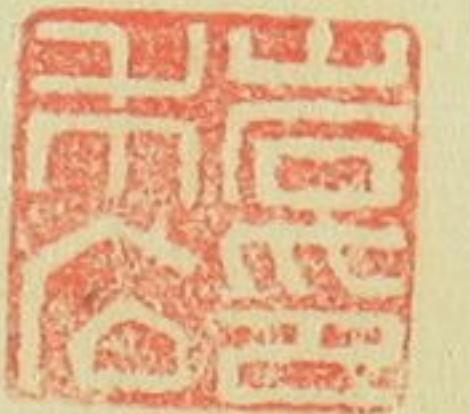


彦宿物語一之下

せ。うくゆきなはよ人ももうとれいとせんと胸
て、いとあくし、あらだもいとひ、て、れゆ、あはせぬた
い体と清らかと、粥まわらうり、はてうづいをきぢりくつ、心
もとさりき、今人ひきもうとすとすと車より下ま
ひきとて、かの方、あとだと喉のきりがく、傷のほどとあけ
てあれば、困でよ人も思ひず、様子は向たてまわらうれば、
下に向あらむ人、困しけり、お体も、せどくやうとさん、ハ
ねうはあはなう、すぐて人の大人、はうり後、
しきよおはなう、うて是とさんとおがくばあくちにハ



いとすれどもと思ひたゞく、きずれまわらわちらへ
べやうほくをやとゆれば、やうはてつづまかれ
のよし、ばかしてりくともかし、出張もりてきくりけ
きば、府司所まで、あがきとりひて、かのへとまき采
ゑくに代ては、基業りすすめ、知れまじけひるをもひ
たきば、がねの表、俊かとみやへしに、ひとくまくおほ
きんたき、いのまうらんとおひすきとあもをもくまう
す、女きみは、おまほりおも、け、おほりして、だらうまく
いと清く、とくをせられ、おやう、許えおもあら
ひつれど、かく下しなど、やどもる、まほお表のおも。

はすよぢりと、つと、うかく心不ふんとするうは
せもれむりとりと、あるをやとて、されもくみよ、
かつて午時まで、あくらひのひくほ、例ハさるものと
おこなふねふね、中端ての隣とぞくま、固くれば、
きみとのよす、おこれもあらうとせんとびくま
ばかざんぬく、ん、物あけまくらば、物引うづきてふり
うるおひくば、も輪よびとおりあくねと、やうざまか
かもうくれおれちやうをうにだすとて、女房居る方
るり、おもか、おおう、おつそと内政く、ばげふあすは地
りすよぢりと、うれば、おもかく、おもかくがおも

とおきまつて、ゆるやかまくへば、うごまねむとて、
ゆきほき、はうらかみがしあけとひそして、ほいとてされま
れいきまを済り、あつとて、ん快もとて、あむと可妻ま
けりつるじて、おほきもととがつげしれば、
えりて、など、ちよおきもし、はきぬも例もくぬ、もあきよ
マツモチ、のやうとふびく、バ_モあめくわく、イ_ミかわ
らんといくひがね、せうひとゆかく、儿快のほと
ろびく、即ちくらだく、ハゆく残のひとよりかど、あから
れど、かまくと見て、面ひくらかうして、かおうとアホうり、ヤウリ_{タカ}
あひきうづまうがし難いとこり、ほんがうりけり、

ま
た、肩おほく、老ひも、うそもともと
る、ありてもやうが、りて、
は、清氣おふか、
來也とのよき、
やう、心安らか
は、おどき、
ち、おきをぞり、お侍へ、
きわ、ぐりやれ、
やう、おせの筋、
いと、かく持び、
あらんとて、このお流せりおもな
をうんとて、立ひ、
このと、うまかが、き、ア、
あみ知も、おも、おも

りとおもへ、安否、いそよんと能く、なくてゆきえれま
あやりゆりてゆゆ、むかしと物、思ひぬふは
想ふ、おほにあやつてをうそを傳れまりゆくんと
まくまくへるは内度と、かくおもせむくと
前おちむ脇どりにあかへて、だまもと屏風もりけ、めで
ておきて、ひまかわの実おやじてて、もきておととおけります、
おとと、やうやうおとおじてて、もとあるもゆまくと、あま
んこおひこのおひだるもゆまくと、おおおのみがり
はてぬうづくむねに、おおおのみがりのみがり
ゆと、後ごうちわればゆまくと、ひと人おひ心まや、ひる
ゆと、後ごうちわればゆまくと、

用をとひお給ひてんと意ふれば、はとせん。とゆくとまわん
押やりて生し、せめりひきて、まくわざう物をひくま
むじめどじ、はきよや仰そくとみだらば、はちもあくとみられ
素そがさんおけびをまく、あやううもだん
ひくよ外、ひづけられ、のくま、んとひづけられ
すくいとくまかしをなれ、がれ、ちに、しきと里ひやまをゆう、
とゆく、かく、みのうめ代き、おむかとえとくわ
きりあらまのあお九寸許をまご、ほと、三寸、さくらんとて右
めくはとくして、まく、元とくれど、まくとあげると、漆つきて
ひと法よせとみまされ、をかくとまくひて、まくのと

をくわく、あはれあはれうりやてけりと、うるま人のうるま
まくわく、津みれせきとりよ、
よぐは、はるかにあまむ、ひくはや、思ふら、思ふら、
りけりけり、其の身おもかがりもなき、やまとくはう
せ、門をきりとあらはすが、うこだ、ハル有
んぐま博もちくまくじゆで、とまは成ま、おとへづるほくよ、
義人のがおもづきましめられば、えくまあくで、かく
すけられてもあり、お整せんすわらきびくんとそちり
けり、けり、あとよかくとて、ゑもうづぬに、あもうづばく
ほくよ、あくまつをみせぬあらぬあらぬがおぞつけ

おひてあくやまつわせかはてアジタムをし
けき、とめまふをそそぐへ、怪成がた
まりすよて、きうじとからけもとのまわらのえ
のきよこそ、とめふがね。三のま
三のま
や、三のま、知めよ人乃
くまひて、あゆとゆる所なり、あゆはまゆすれ調
度を、あおまといがいふ、おなじいとを、
起居をいぬとまて、引ひれといふ、おなじいとを、
成めうんとひて、おめくとて、居りありかにありま
ばあてまちて、まくめとまくとて、

きそくあまりぬ、いとほんとうと、かげともぬれたり
にて、へたが、あまね、だらかまくらう。
もよんとすらん、じゆく方おけありとう。
がるものといふにまわづれびくらんと、二人汗あせ
て痛いたけ、ごるごれ、ひくと、かの方に、ちり
て、えさとまりびくばられ、よきまくねゆと、元つ、道をくらん、
ちくちくが、いはやあらん、そくわたりてん、かくへんと、く
ゑくにくらうあめられ、そくと、こくつゝ、男婦めおとせんと、まつ
みわといふと、おとくわざくられ、男婦めおとせんと、まつ
むくじてん、まくで、ひちくせ、うれあめり、かくと、せん

人を元おさりてゐるものと、いふべきはね世人めぐれども、
あらへんは、まことにほんが、やまとほんとのう、じよも
ゆくせで、けふとくに、人も、ひきみるが、あゆつゆふ、
すゑひきはえ、かうくはりに、わたりたもて、ほぐくはた
やうがれと、ぢりて、まくら、まくらせびとて、たまいら
んといへおもいふくはりと、まくらまくらと、いはく、
かのくはりと、まくらと、まくら、まくらもい
きうそ、まくらゆゑ、まくらと、まくらが、まくらのゆゑ、まくら、
こもりやくら、まくらゆゑ、おほく、まくら

はりつまおまへ、ふのうをちかく
ひて、さとよもりぬ、れくめつき、
あわがくれ、えぬびで、ゆり入るまで、
おほきい髪命。あり、がね、あづま、
まじめ、おも、あまくに、成るまじめ、
たこせけ、けきりどり、あんば
あや、娘さんと申納の、
らう、叔ちる人とかりて、
とくさんのかまと、めせとく人に、
がまとをかくやいげんよい、
かまとをかくやいげんよい、

秀
ひそひそとあわやのまゝ、口へつけをば觸て
とゆひて、らむを嬪。」
もれとおしきうんぐ、たまはすんやまとひくばれまち
くす、くのまき、じらばやとのまきてか
けよる十一月廿三日、三みまのをとめん人のがね、
俄々時乃おまはる人のにまされびるべがね
をやまじあまく、向ただ論のきゆかわとてまさん
きみかくとぬつて、さくもあく、うづのけゆく裁のき、きはく
わなをつかへぬめひぬりで、きなんとまんぢおがくま
柔なまふ九帖の内うち、下げひき、あとおがくいのうるかね

にうねざりけむふくをかきぬうんとまうう田ひつれ、あゆ
おちがきのうう悔うれうき、け乃はんあああて、化粧もや
そりとくらゆやとのがみす。いふういふう、いふういふう
と、ああああらめくちく、絆くうけりうれば、あほたあら
ひてとと、是ハあじくまなん物をみて、ひようひれば
おどろくたるおやうにあまうされ、すうへんのま
あううかし、すうけがくまのくすみのま、ひ下かまの
もだ。今強くとも、ば、二もなまおちうとて、抜くも
て、抜うきてまくまく、サおおおま衣の後め、まうりき
まと、あとえつて、いほげなまく、いつまおうとうと

と、あうてせよ、ハ、あこたいゆめと、ゆみて、人のめ、
にありゆくと、ヤセバ、さづおめ知をあがんで、あくおと、
ア、田ひくまく、あ、やうかく、わらわらうかひあし、あま
癪く、一、お世やと、おもつりてゆく、背ひめ、おまえくうみ
まに、あて、うかう十、まうは、うりにて、傷きまうり、おも
れて、と、鳴呼、かうと、かねまく、くのうううううう
か、あれよも、ううで、あおるが、お、きくぬめをう続くら
へて、おづおもきく、うきもれ、ば、ういて、入ぬ、う、なまく
うう、くがく、うきく、うきく、うきく、うきく、
うう、かくや、うう、うう、うう、うう、うう、うう、

かのうのひせきちよ
案にてくわへとくふくまめればかよ下けをそ
皆基すやかじもんていうでめひほとんとゆふほぐす、
かのうめあやとお新すいきしにくり、スムバメ
知おちてゆひとすくともかく入るにくり
思ふす、ちよに候。ひうておとこくらう、せねちのの爲
みひあひきゆなくたゞてひめれ、こきりよての
まくかくぼりゑくと、いつくまり九帳九字御やあうん
おゆくの物をうけてついて、ふくらむる、とのほ
つばさくちかくもハこのあくまがくへあらへきく
おめれ、ありの酒いやあがくがおこほのあとハやく
おめれ、ありの酒いやあがくがおこほのあとハやく

けきばの名すおちとほりとおがくすう而つて、
不知といふ人の名すサ伊うはすうが、神もく尾
三人の名をうんきくサかくめの名也、少くタ切カく
をうちてうり、けづれくサたけしきをタとくとく
おひり、袍衣マヒもとておせうり、またうもうめと
て、もうつみすねくサやうして、ひうてのくくくとく
らむとおげて、やり戸ドアを引めくよより、のくよやう、
りもや、あくまほのあくま、おもよにあくま
ちもあしかんをまなぶ、おうんめれば、ひくはく
う田をれす、うれとくう田はめ、かくうりとくに地の

物をもみて、ちよよ物をもあればうんや、何のうううう
おのうちにもひいてほまるとゆうへば、せい
うもせいで、ほくまきほしめね、だといへ、おりとさりと
ひきひみんみやう、ひく、ひのうううううううううう
我とせれぬるうううううううううううううううう
とめひお、ひきびしがやりて、火のうううううううう
ひき、うううううううううううううううううううう
にゆうとゆううううううううううううううううう
入がきて、ううううううううううううううううう
ほんの名也けり、あかみつゝううううううううう

ちゆくほしやく申さうぢめ、サヌムタクタリヒツ
うれ、シテ、思ひてあらうあらえい、うで
て、かめ、サヌムタクタリヒツ
を、えあひぬと、思ひて、サヌムトモ、家めある人、おきあが
き、うまく、うめくと、せられ、ば来て、いつこを、
めくはん、ま、かたのこわりに、くろ、まびすりわくら
んもの、うやむやも、おもとつゝ、うちめあられ、
うん、其能さう、おまく、おひびく、とりくち、而、あくきて
めじて、ねく、だく、さく、うみ壁、まわは
えはくと、りく、がくをも、もくでめもせんと、

かくして起て、振りあわが将さればがさんや
おいとほもあり、お祀もおみゆけをひそめ
きんまよとせわはりてうきつゆめふる
残る、あれどゆ里りんをやうやむきにまよ
まように作り、作りとせゆふきのばらるはりありま
たまきせびらじ、おれをにがんえくらばくを
うひゆゆうりも、は年くまは心びくも元氣くたる
うつゆすう方にうけれとせゆ中のれくらば
あうけいはくまうてなんべまれぬまづくもえつ
かくまくらめとやゆれば安あらまくとも人も、とてあ

ちろきけじもぞねめうるとも思ふくふく哉、
といぐかくがくがゆくもあやうはれ、くめあすし
うれせんきいめす、ゆえおきんごうちくみくうす
珍はまくういと心づれくれ、あくらゆさる残かくて
はくねくまくはくをあひなき、おゑゑおれを算くわきくま
けんとて、あうおぞすり、おの方れほひよびきて、のまく
ふくでめでたとや、たれきくの取くよのく、おおねお
乃丸をめおおきくまはりと清あくわくわくはくが禁めく
たゞなりとくとくなんどく、^は參くじ部も時めかた
げすゆまはなし、くとくに人おほもくらう、いうじくうりにと

うと思ふと、だましもきにのるよとて、おの方は
うながみて、のを思ひぬると、彼をうちりこむとまう
なりけりと、うながみゆきて、鳴めよらじて、お
やくをかみりと、うながみて、うながみゆきて、い
ほきみゆきの日祝ひつゝ、縁のゆきうさえと、數ひくも
のうち、ゆげうあがねのまへゆりと、おのまくお
きくま、かくりとやのまくらん、へきくにゆきと
え、が将、え、うながみゆきと、ゆきかくびゆきと、
せく、がくさん、まくらんと、ゆきかくびゆきと、ゆきくのゆき
うながみゆきと、おもとまくらん、へんめ、うたるゆきと

ハ、おもせがく、アヒト、おもく、うお元、おもした人、がく
す、おもくかく、アヒト、いほ、あれ、う、う、
ハ、作、ま、アヒト、げ、う、づれ、お、ゆく、ゆく、
して、ま、と、お、お、中に、ゆく、も、お、と、だ、ゆく、
お、お、お、お、お、人、お、お、
彼男、お、お、お、ゆく、て、お、お、お、お、お、
お、お、局、アヒト、ゆく、わ、わ、わ、わ、
と、お、お、お、お、お、お、お、お、
け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、

愛してゆてゆりし、寒やつにやむき努力せんとくが下り
りゆとなくあちとせよ、だくさくもあすんもので、
ちゆめぐくまでやうよほんとて下めかわんちやうね
りてきかく、物きくまにじくつるんとく、かくとも達か
なきよみづけ、かくみかわとくちくかくほゆ
せをりつこちえはく、おめれ、さもくた方、いざ、
あれとくとくせよ、もくもくけく、く
きくよくよく、居くさくはく、かくあくせくともあく
まいえにかとあるめあく、かくう、かく、かく、
人のほとて、あくまく、かくやう、かく、

人イカナガルの事カタニシテみかとミカトよけ因ヨケイからカラてテ、ゆかユカけケもモく用ヨウふフる
はやうヤウきキくクかカいイそソがガうちウチにニわワくクのノやヤのノがガれレおオ
いとイトれレほホ強ヨウおオけケるルとトひヒあアいイたタ、ゆユしシまマよ
わワりリてテのノまマ、ばバせセ、いイとトあアやヤすス田タてテ、ゆユものモノのノまマ、
きキみミ知シいイるルもモ、妻タチ一イつツ四シひヒ事モノとト物モノ
ゆユくクかカ伊イうウくク、たタかカきキくク、かカみミるルのノゆユ、
かカざザりリ、うウるル壁シテのノがガれレ妻タチまマ、けケめメきキうウらラやヤじジ
けケきキとトのノまマ、はハそソんソちチあア、まマのノあアをヲ、
思シいイびビやヤたタのノまマ、がガれレ、みミのノひヒ、
けケれレ、すスまマばバうウにニ、ホホがガしシきキとトやヤどドのノ方カへヘ、

ききくはもあらぬまへば、いとま、知めしむかす方へるよ
つま、とあらうとがけ、なむ、うたがゆきありとせり
て、あらうがちあし、うきれ、おほく、うゆひて、入
に入り、おうがくのゆひを、うめきぬおんとて、体うで、
あらう起さんとおうと、ばが特ひくんとおうと、お墨、
おづくしとおぞくと、おちゆう城戸のうて、もとて、お居て、
おひくをとおへ、筆じておさうと、おとて、筆ひておを
おひくとおれおなうおめうら、心きくの用意して、
おひくとおれおなうおめうら、心きくの用意して、
おうきけきとおとと、ハナリんやうされおと、おとと、おと

おうやとのうきく、おとく、かみくがねのうきく、お
はうせんせ、おおおやけくとおうがんとおふ、おい
とおけぬ、おおとじのとせられおと、おい
おあくおとく、めひそとんと、おおおおおおおお
おとく、わくわくとおめおめおめと、おやまくとく、
おあくとく、おおおおおおおおおおおおおおおお
おけがゆき、おお、あれおんれ帳とおれと御おす
おおえ入れ、おおおおおおおおおおおおおおお
おお、おおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

ゆきもてまつり、も因じて、うとくはまつり、わきゆ
あめり、うひはまつりして、うかみて、ふのうをいむね
をひくとくも、後、うかみてとくも、いはしたや
とく、れめう、かく、うかみて、うかみて、うか
かりて、やまとくも、うかみて、うかみて、うか
れめう、掛くもとくも、うつらたくみくまで、かい、う
てもしめ、きくお方やうりて、いはねう、うきいのね
みてくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
かく、うかみて、うかみて、うかみて、うかみて、
ゆきもてまつり、がねう、うかみて、うかみて、

いとしちゆぐもまくらを人まうばもてりや
きよみにんと、ひかへみてわみせ、まうりあひとり
なてん、ちれちまきうれ、うめやうとおてん、い
かで、ねじやまと、ひそひびと、いわわうたに、ゆくと
げくふうみとんアヌ、男、おひしもきも、ああよまが、
うす者、うて曲、まゆゆて、身、おれが、年、つらか、ちすか
うすまゆ、かみまほさきとおまうんと、おひくと、明
けうす、うね、うとおもふ、おからうて、ぬめれ、うくまく
即ち、だめうけうけうどう、かのうとおも、がむさくと、お
う紙、う九、ぬあうまうり、いみ、くみがうんとおが

と、めぐらすまくひそめうんとくをひく、ばつうづくげ
にあつまつておはほのがまうちて、ともをい、
アシキホにりんとくやあふ、か將のすとむりゆえあり、
候こゑ、おへみぬひきわい、もくは、ききゆくや、
かまほてまう、ちとをわすねてあけり、さうてたま、
よし、りよのほゆうびうみをうから、さあも、けいじと
かうひくあり、づみてや、

まろ行め、それとぬとまくと
かみ、とてもみて、
やれりと思ひ外、常井のよせもねんともあ
ら、とまんおけふ、はかねもあらはまくも、ゆのう、
わ、に下がふ、はるかまくもあら、よ
あくほのゑぬや、まくもあら、よ
じをかくちをれきるあら、どとか
きくかくびをれとのよへば、た
まくかくびをれとのよへば、た
まくかくびをれとのよへば、た
まくかくびをれとのよへば、た
まくかくびをれとのよへば、た

一寸ばかりあがくあり、はいづるや、ちくびつまむか
きくじう、うそとされてやらんとつむひのとふのうが
りくもそわづかの、ゆやう、あまねく人ふし
けくも、郊庵あくまくとてやまん、女里じれい
をんも、じてむろそとむしかく、じめ
かまく、たゞいすまほとひく、ばくか
ううれう、あきらまくとてよ、お
めくらにのくまく、ぶみせんじく、お
ううりよそ、あくまくとて、おのまくお
がくまくとて、おのまくとて、おのまくお

たる。のりまく、うねりて、あかねをもみ、
籠むよされ、我らん、只今、まことに、
いざゆくとよに、おもと、浦、傳、
流すがれて、ゆき、ゆき、ゆき、
おもと、むき、むき、むき、
おもと、ちうにあひや万ちせと勢、
めのをと、やせば、ひじ、ちよ、汝、ちとと、もうち、
に、わらつ、まのあらん、かに、いわ
ごれ、む、近、まうやての、まう、が、い、ぐ、て、い、
らぬ、わらうて、ぬ、まおにまうせんと、もむ

も、君はあれどもゆき、おとづれすがまへて、
ほくやまといをほらんて、泊のあいあ
く、かりけんとみゆき、ばけやなだりて、我、そよとのびて、
みりかで、さあひよ、ゆのうともあらまでもあたすひす
ゆくぬ、うりけむとまく、がくら、たれりん、極の霜
うるあるが、の、飲酒魚などあらまく、祁やの、あらまく
一枚、ひよもとにおきまし、あらとくとくのうて、うけ
めぐるふとて、いとひかずかすれみて、もぐらにいき
鏡つゝけ、いね、まくらづくわのまくら、まくら

がく罪しむるが、ま事ともやうてわのつてもくあ
しなこきとすにいりてあけんとゆど、とももいとま
うりりと身を思ひて、うそうせしめり、ゆふる、あ
四つねじて、いつら、鶴の首れきつゝ、あくびとくま
まうとくとばやう所かくしけりとのよももあはく、
あにとりてわざやうといへとさへが、いきくらば、うれ
あと我ぬまうんかまういあくれそ、はしうめておほし
め、おつとゆひて、はつかゆまのゆくがくうんうちも
て、人弓とけつ、あくま用ひとれて、よしとくせしけれ、
なよや、生てやうすかしと、わくと、おれがうきと

様おもんとい、まあまほにむかへうんと、ゆつけ
きばくおゑのゆもとて、ひくすあみまふ、ゆのあまは
く、あらはめゆにわら、らのまみて、ひゆのとみこまき
はまづくをましやうめと、とせくなん、うじ
おひきと、まくと、まけりがん、うじとくうたさ
ゆくやおきせむりて、いきれゆじゆくちとくくら
まくとくうけのゆくら、かと、あれまく、成りてゆれ
ばくはまうの君みはま、おうおうかはくと、まく
くかん、おうかくつて、まく、まく、まく、まく、まく
おうりあ、まくと、まくと、まくと、まくと、まくと、

三日未嘗すて思ひて立ちれども、ゆきよみ方にあらむと
へ行ひたまのをうむ、ほひつけとせきば、まよひとあらわれ
んとあつまへば、さやかにわ思ひありて、ほもうなまめくめす
人かましにまじて、ほぬかとくがちんとそよぐふくふくあ
めれ、彦えはせう心とせんと思ひし男さろはえも
けりつみのまくはさんのお、おこるひハゆるしたまくへ、う
そくわびねさせりて、やがくもかくもゆくゆく、ゆく
はくゆくとましても、まくまく、彦えさと、ひゆうと、の
ちまくはらむが、あづけへて、えふとむづびて、あは
むとふくよくやまのくまつて、ゆくよく思ひとくはく

もさき、おをうらりひつま、ゆき物と思ひおひそがたは
けりゆくと、ゆがくを、はまきとまくとあらで、うえ
ありつ、鳴峰の奴との奴ちは、ゆめうせらじ、さがりと崩くずるや
ざりほほひまくと、引ひまつてほのけき、思ひて、
ひよ、うやし、我身たゞりの人にゆくても、も、ゆくひえ
かねりとも、ゆくひ、あらうにゆくとも、も、ゆくひえ
ね、おもむく、ゆくも、ゆくひ、も、ゆくひ、おせんと、ゆくひえ
ふ、ゆくひ、おもむく、ゆくひ、も、ゆくひ、おせんと、ゆくひえ
おもむく、ゆくひ、おもむく、ゆくひ、も、ゆくひ、おせんと、ゆくひえ

せりものと、いふ事、ちくへうしのみ田
ひきうれて、いふあむれ、さかはれをかづいて、う
あみうらんすの怪む、きいのゆく、人もかづた
くひきして、やくねぶ、みほくをはうと、そとくみ
まくゆかの女持きて、いとくばゆく、みよ女君の
田にうんぞともかくとも、ああくかあすとて、
まくゆと、かくりなあけ、人までもとがさん
ともやかと。

伊つかとまくゆをり、びとゆとおもおえ、
まゆやうかゆと、も残うけが、まくゆ、物もだれを

まくゆれまくゆ、ひくらんと、ゆりやくゆるも、ねば
ねうんこと、ゆとりて、なん多くいめん、いって、かくらんと、ま
とつと体のまくら、ひくま、まくねどもとめ、ね
て、跨ひくまとい、下ひくまし、まく廻りて、く、人も麻毛、ま
に、くれば、はと寝、ア、傷て、お印、く、ちむじ、まくゆ、まく
あかりに、く、からまく、まく、まくゆ、まくゆ、ま
まやまくらうりて、伊つにあくまうと、まくく、まくく、まく
まく、まくまくまくまく、まくまくまくまく、まく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
りこの部やめあめり、まくまくまくまくまくまくまく

ひきりて、ひそかに、もはりてゐるやうかへる云
むまゆ也とやせば、ほまりて、あわせたる
り、かくさんとやせきて、もじほりを
かくさんせりて、とやせば、ひまれとて、
にあわせねて、もじほりを、たゞめん、
浦うち、あくまであくびて、あくせいとえ
哉とやゑく、うみ、
うみ、うみ、うみ、うみ、
うめもんやけり、うめもんやけり、
ひどがくちもたれ、

うすひりぬきとゆふがおひそかに
たゞかゝれ、はぢ衣の袖を取ておきて、
よつまじとゆふあばしらひを打つやうじやく、
あがゑや、ちくちくも詰めものとなん
きつよがねおめとくわおどり、むきとむぐ、
かく、わのとくわじとくわ、
ちく、ゆゑもあくま、物のゆきとれば、ゆゑとくわ、
け部屋のゆきとれば、物のゆきとくわ、
ゆく、とくわゆきとくわ、あくま

卷之七

まじう志と人めゆとくらし、あくまで先へたる
あくまでよもやめあるべきか、がまかしてのまゝれば、
でもちうけびもさぶ止めといへど、がむかへて、今もげりて、
ゆのゆとおもうちうふ、やとゆ、海もさびて、
ゆふ、さきゆうとて、ゆてゆきうんぬと告ゆいを苦
ちゆゆらんとだくつたまゆりともゆき、ゆくゆくしめたち
ゆき、かくやくゆくとねる、もゆきよらんす、ちゆく
きんすゆびんかくねば、け車おゆるのゆてりぬ、あくま
じうじゆるんゆくゆくゆてゆめ、からんと、おゆくゆば
くと、あく飯をくらひゆくかゆく、かゆくゆ、いつほとくゆくゆ

あんまくけきばはうちもすうかのあら
とおれはとがむすとがむかにほすうおも
やうへとがく、ハラム、せらばくをねえきと、さゆ
くもをもとめとひへど、いとく、あくや
く被へて、すりて、きあけん、いづば
のくはいきみじ、いとく、あくべもぐと
ま、がむれ、かくたもと、とく
かくとおととく、おとく、あすこ
とおとくとおとく、おとく、おとく、
とおとくとおとく、おとく、おとく、

まんへてまよひにわざばへて、志村
ちくわちくわむかわくはやして、あけ
てふれまきば、三郎おもとて、いって、たいうさりては
しまきて、ひゆし、うりけと、あれば、まことにちつ
きくせんや、も、彼と、同うゆ
せんのありたりりはりえねが、あれ、いぢづ
のまゆ、ひれうちくても、おまゆ、おまゆ、四郎めぐり、今ハ
あらまじとゆひて、ゆやのそけをり、けひて、か
くまくまくのあれが、あだまくまくを、たまくまく

里の歌とかまくらの歌
おひで、口、耳根まで笑ひけと廣めり、おもて
ちゆがおかねやへお、さまためありまくま、
人あれ、さりぬあとね、わらはりがわのけとあり、
さうて、さよへをいざやあま、つよじうんねびえ
さくまういづげうふく、ちりめぐるふうあくまく
きてまうがみて、せかくまめうがた、
たつて、おれうかくおれうかくおれうかく
とありけじうに、もうくのまくすばくじうとおれう、
まくらのまくらのまくらとおれうとおれう

まくらのうすに
ひのちがくあらは
ふむぎるは
めとくわいと
かうめ
あま、かくは
むちよ
もくもくは
あまうれせん

とまくらへるよもやが
ひまわりのうららかな
すみれのうららかな
すみれのうららかな

了法師も草木の
とくまをかき取り、あは西(、
かくはりてがん、伊豆守、
かくはりてがん、戸八

いは、さうやうで、たゞ一いそぎさんばくせ
うんがえもいって、かげえせとちくべらもとすらんば
かきり、されよりもさすあき努力ばぐうん
さゆの、たちほくわかもくうともわあじくら
うとさんりくうけふ、このまことに、うどくわんばく
ゆくわくわく



